

2023年(令和5年)1月21日(土)

緑地の湧水池に釣り針

三島・清住 「大変危険」NPO憤慨

三島市・清水町境の「境川・清住緑地」内の湧水池で、テグス(釣り糸)にからまった釣り針やルアーが見つかった。20日、環境保全活動などに取り組む三島市のNPO法人、グリーンワーク三島(GW三島)が回収した。GW三島の渡辺豊

博専務理事は「自然と共生する空間に危険な物を放置する行為は許されない」と憤っている。

2枚の緑地。カモ類やサギ類、カワセミなど約60種の野鳥が訪れる。滝副会長は「翼にテグスがからまると野鳥は外せず、衰弱して死んでしまう。釣り針も大変危険」と話す。

日本野鳥の会東富士の滝道雄副会長(72)が18日に見つけた。2週間前にはなかったという。また、池に約10匹いたコイが姿を消して

おり、何かがコイを釣り上げたと推測する。GW三島の職員は胴長を着て池の中に入り、枝切りばさみを使ってルアー9個、おもり1個、釣り針4個を回収した。

津土木事務所管理課は「子供が裸足で入る川の中に釣り針があるのは危ない。水辺の自然を破壊する行為はやめてほしい」と呼び掛けている。【石川宏】



①境川・清住緑地から回収されたルアーやおもり、釣り針、テグス②胴長を着て湧水池に入り、釣り針やテグス、ルアーを枝から外すGW三島の職員―いずれも三島市清住町で